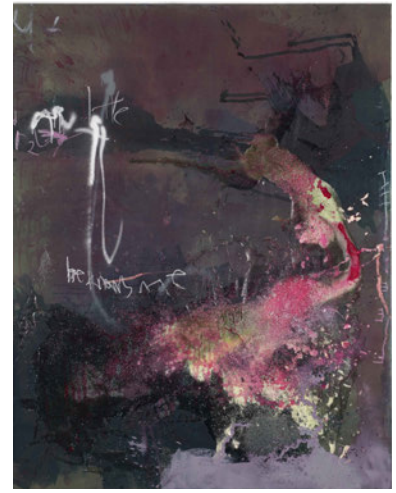


東島 毅

「I'm back again」

2022.10.30(sun) — 12.25(sun)



「He Knows Me」 2021
oil on canvas

この度 rin art association では、東島毅個展「東島毅／I'm back again」を開催いたします。

東島は日本人離れしたスケールで、これまでも鑑賞者を圧倒するようなラージ・スケールの作品を描き続けてきました。見る者の感覚を日常の枠組みから解き放ち、身体感覚やイメージの成り立ちを鑑賞者に投げかけ、再定義しています。

今回の展覧会では、これまで取り組んできた絵画へのアプローチに加え、新たな素材として粘土を用いたセラミック・スカルプチャーの作品を発表いたします。

セラミック・スカルプチャーは3年前に構想を始め、試作を含めこれまで約120点を完成させました。またこの間、一貫して追求を重ねてきたテーマ「曖昧な美德」による絵画作品においても、新たなシリーズを完成させました。それらは相互に関係し、自在に平面と立体の間を往来します。しかしこのユニークな試みも東島にとっては、未来へ向かうターニングポイントに過ぎず、常にスクラップ&ビルドの途中にあります。

今回は、ギャラリーの3フロア全てを活かした展示をいたします。制作現場の一瞬を留めたいという思いとともに構成したそれぞれのフロア。立ち戻ってきた絵画の現在。私達がそこに立ち会い、それぞれの生について思いを巡らす展覧会となることを願っております。

ただそこにあるものとして語りかけてくる paintings と ceramic sculptures.

I'm back again. ここに戻ってきたと思う場所が、以前のここではないことを知る。

re-working, re-thinking. しかし、もう一度見てみることに、考えていくことができる。

螺旋状の生と慈しみは、孤独と対話という矛盾のアイデアによって私を支えている。

東島 毅

東島 毅 (ひがしじま つよし)

1960年 佐賀県生まれ。岡山市在住。1986年筑波大学大学院修士課程芸術研究科美術(絵画)専攻修了。

1988-90年 ロイヤル・カレッジ・オブ・アート美術学部絵画専攻修士課程在籍。

主な個展に 2000年「近代展 25 東島毅」国立国際美術館(大阪)、2007年「東島毅展 Selected Works 1988-2006」岡山県立美術館(岡山)、2008年「東島毅展 絵— PICTURE」国際芸術センター青森(青森)、2018年「guest room 003 東島毅— Dual」北九州市立美術館本館(福岡)、2015年「東島毅—キズと光」大原美術館有隣荘(岡山)、主なグループ展に 1995年「視ることのアレゴリー 1995 絵画・彫刻の現在 第一期表層: 矛盾の包摂」セゾン美術館(東京)、「水戸アニュアル '95 絵画考—器と物差し」水戸芸術館現代美術ギャラリー(茨城)、1996年「現代美術の展望 VOCA 展 '96—新しい平面の作家たち」上野の森美術館(東京)、2001年「先立未来」ルイジペッチ現代美術館(イタリア)、2010年「プライマリーフィールド II: 絵画の現在—七つの<場>との対話」神奈川県立近代美術館葉山(神奈川)、「野村和弘／東島毅 みることをかんがえる」いわき市立美術館(福島)など。

[水—日] 11:00-19:00 [月—火] 休廊

contact

rin art association

370-0044 群馬県高崎市岩押町 5-24

t:0273-87-0195 e:contact@rinartassociation w:http://rinartassociation.com